

ムギ



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法	
土作り 兼・元肥	なるべく早い時期に、 同時に投入して耕起 ※20～25cmの深さにブ ラウ耕をするのが有効 ※地下水位40cm以下 の乾田	例1:稲ワラがある場合 ●稲ワラ(10アール分)500kg ●ラクトバチルス600g ●硫安30kg 小麦=田畑の大将<赤>20kg 大麦=畑の大将<青>20kg	例2:堆厩肥を使う場合 ●堆厩肥500kg～1トン ●ラクトバチルス600g ●硫安20kg 小麦=田畑の大将<赤>20kg 大麦=畑の大将<青>20kg
		<p>※とくに地力の乏しい土地の場合は、硫安を10kg増量。 ※もしワラ・堆厩肥・有機物が無い場合は、米ヌカ60kg以上と、硫酸カリ10kgを追加する。 ※硫安ではなく通常の複合肥料を施す場合は、チッソ成分5kg。 ※小麦では、品質(小麦粉のイオウ含有量)を重視して田畑の大将<赤>を。大麦は、土壌酸性に弱いので畑の大将<青>を推奨。 ただし、土壌pHにより使い分ける事。特に水田の落水後1ヶ月ほどのpH低下には注意。酸性で排水が悪いと湿害が心配。 ※種撒き15日前までに施用・耕起しておく。</p>	
前半の管理 [11～2月]	種子/播種 前半期	<p>① 種子は塩水選(小麦なら比重1.22)で選別し、温湯浸(または薬剤)で黒穂病の消毒をして、播種・覆土する。出芽後、除草剤を散布。 ② 土が締って、排水・通気が悪い時は中耕して新根の発生を促す。 ※もし湿害(鉄過剰害)が起った場合、土壌pHが酸性(5.5以下)なら畑の大将<青>20kgを散布してから、中耕する。 ③ 12～2月、霜柱によって耕土が「浸み上がる」場合は、麦踏みをする。</p>	
分ゲツ肥	早春 [12～2月]	<p>●硫安10kg ※2月以降の無効分ゲツは茎立ち(節間伸長)後に枯れるが、ここに蓄積されたデンプンや栄養分は有効茎へ転流し、穂を充実させる。 ※地力が出来ている土で保肥力があれば、追肥は不要の時もある。そのためには土作り時の硫安を10kg増量しておく事。 ※2月のチッソ量が過剰だと、3月に幼穂の原基形成(ひいては収穫)が遅れ、節間が伸びすぎ倒伏しやすくなり、サビ・ウドンコ病も増える。もしチッソ過剰になりそうなら、田畑の大将<赤>状20kgを散布し、カルシウムでバランスを取る。(硫安と併用可能)</p>	
穂肥	[3月上旬] 出穂前45日	<p>●硫安10kg(ただし、チッソ過剰の場合を除く) ※初冬に分化した幼穂は、3月中旬にエイ花が分化し、これ以後、節間伸長期となる。エイ花分化より前(3月上旬)に穂肥を施す。施用時期が遅れないよう注意。 ※穂肥は上位4葉(特に第3葉)を大きくし、穂の粒を充実させる。</p>	
登熟促進	[4月上中旬] 出穂前10日頃	<p>●畑の大将<青>または田畑の大将<赤>20kg[選択] ※土壌pH:6.5以上と高い場合は田畑の大将<赤>を施す。 →花にカルシウムを効かせて、登熟を速く進め、脱粒を防ぐ。</p>	
出穂・開花後 収穫前	収穫20日前迄 小麦:5月中旬 大麦:5月上旬	<p>●花咲<Ca液500倍>を葉面散布[選択] →乳熟期(開花後25日)の乾燥にも、粒揃いを良くし、赤カビを防ぐ。 ※もし多雨やチッソ過多で穂の登熟・黄ばみが遅れるようなら、これで成熟を促進する。 ※この葉面散布は、小麦粉の品質を高め、種子用麦や麦芽用ビール麦なら発芽力を強める効果がある。</p>	